こうとう民報
2017年　3月号 №148
江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発　行
こうとう民報編集委員会
責任者　猪又　武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

怒りの江東区民集会

2月24日、江東区猿江公園で「2・24江東区民集会」が開かれ江東区内の労働組合や東京土建、年金者組合など各団体・個人など、250名が参加しました。集会後、亀戸・文泉公園までアピールしました。

重税反対区民集会

今年で48回目となる「3・13重税反対江東区民集会」は14日、総合区民センターで開かれ150人が参加。江東東税務署、西税務署まで分かれてデモ行進し、集団申告を行いました。

集会は東京土建の油屋氏が主催者挨拶、来賓のあぜ上三和子都議が連帯挨拶。

江東民主商工会の森外事務局長が基調報告で、免税業者を分断するインボイス（適格請求書）導入計画、国税犯則取締法を国税通則法に編入して税務署の任意調査と強制調査の境界をあいまいにしようとする策動の危険性を告発。憲法に基づく主権者としての申告納税制度を貫徹することの重要性を訴えました。

あぜ上都議は、日本共産党は能力に応じて負担するという税金の集め方、社会保障、若者、子育て中心の予算という改革を提起しており、格差と貧困をただすため、共にたたかう決意を表明しました。

主催者を代表し名越秀和区労連議長は、戦争法の成立以降、「野党共闘」の市民の声で共闘が発展したと挨拶。

そえや良夫日本共産党区議団長をはじめ各団体代表が決意を表明しました。

集会決議は、安倍政権が強行した戦争法、安保法制は明白な憲法違反だと糾弾。労働法制の改悪に反対、大企業への優遇税制見直しで応分の負担を求める政治が必要だとして、総選挙で戦争法の廃止、憲法9条を守り、安倍暴走政治を退場させ、都議選では豊洲移転をはじめ都政の歪みをただす都議会を、と呼びかけました。

議会報告

平成28年度最終補正予算は、取り崩した基金のうち30億円を積み戻し、そのうえ新たに146億円を積み増しするもので、基金総額は過去最高の1124億円に達しました。

区民サービスは縮減

一方、区は28年度も財政の効率化などを理由に、区立小名木川保育園の民営化や交通事故相談窓口の廃止などを推し進めました。

交通事故相談窓口の継続に要する費用は年間660万円、今年減らされた敬老祝い金を元通り支給するのに要する費用は2700万円です。また今年度新たに区立小名木川保育園民営化の運営費を約3千万円も減らしました。

《第一回定例会》

平成28年度末　基金総額1124億円も

職員の削減　現場は深刻な人員不足

区は、人口が増え続けるもとで職員の新規採用をせず、技能系職員は「退職不補充」として減らし続け、職員給与費は15億円も余らせました。

しかし、現場から146人の増員要求が出されるほど職員不足は深刻で、土木事務所では技能系職員の連続削減で民間委託が拡大し、ゲリラ豪雨や大地震などへの緊急対応力が著しく低下しています。

日本共産党区議団は28年度も、区民施策削減の取りやめをもとめ、さらに子ども医療費助成の対象年齢拡大、職員確保、耐震改修促進、小規模事業所支援などのための予算修正案を提出しました。修正額はおよそ8億円。税金の使い方を改めれば直ちに実現可能です。

新婦人江東支部　第33回定期大会

「憲法を守り生かす仲間を増やそう」

新婦人江東支部は3月12日、2年毎の定期大会を教育センターで開き、活発な班活動の経験交流。「戦争も貧困もノー！」「今こそ憲法を守り生かす仲間を増やす」などの活動方針を確認しました。46人が参加し、あぜ上三和子都議が来賓挨拶しました。

議案討論では、30以上ある班のうち10班が報告し、福島の原発被害の現地調査、在宅支援センターを残す運動、毎月のおしゃべりとウォーキング、短歌の合同歌集発行、特別養護施設を地元につくるための署名と街歩きで適地を探して区へ提言など、会員の問題意識や条件を生かした活動が生き生きと紹介されました。

入会数か月という若い女性は「『何だろう？』を考えさせてくれるのが新婦人だとわかった」と壇上で感想を述べました。

前大会以降に会員38人、新婦人新聞52部が増えたことも報告されました。

《訂正》先月号の「潮騒」で、「1兆円」は、「1千兆円」の誤植でした。

高校卒業おめでとう

戦争法の廃止を求める砂町の会

3月11日、都立東高校で卒業式が行われ、「戦争法の廃止を求める砂町の会」は門前で宣伝をしました。

「高校卒業おめでとう」と題した四つ折りチラシを卒業生と父母に手渡し、新たな旅立ちを祝福しました。

潮騒

啓蟄を過ぎて暖かい春の訪れが期待されるのに、寒波の南下でなごり雪が降りました▼啓蟄といえば、国会では森友学園や加計学園、都議会でも豊洲移転や晴海の選手村などにからむ数々の疑惑が噴出して、国民の怒りは治まることがありません▼政官財癒着のもとで、国民の財産である土地が、政治家の介入が疑われる交渉で不当に取引されています。森友の場合、小池晃議員の追及がなければ、ありもしない産廃物除去を理由に値引きされ、タダ同然で払い下げられたという試算もあります▼当時の籠池理事長は、関西の日本会議の有力な幹部で、教育勅語を暗誦させるなど、幼稚園児への国防教育に対して去年の稲田大臣のものをふくめて防衛省から5回も感謝状を贈呈されています。安倍首相夫妻や橋下、松井両知事とも、戦前への回帰をめざす同志です▼都議選を控えて、オール与党で豊洲移転を推進した都議らが、俄かに小池人気に便乗して自己保身をはかり、右往左往しています。とりわけ二種分立での行政チェックもわきまえず、しかも、自民党と連立与党の公明党が、知事にすり寄り選挙協力する無節操にはあきれ果てます。いまこそ、疑惑追及をリードして国民本位の政治をめざす日本共産党の値打ちを、すべての有権者に語っていく絶好の機会です。

江東革新懇 2017年総会

衆院選、都議選へ運動・組織の前進を

江東革新懇は3月17日、2017年総会を総合区民センターで開き、安倍暴走政治に審判を下し、野党と市民の共闘を発展させる活動方針を確認しました。記念講演は立憲デモクラシーの会共同代表の山口二郎氏（法政大学教授）が「政治危機と私たちの選択」と題して行いました。

山口二郎氏

「憲法と民主主義を守る大結集」を呼びかけた山口氏が強調したのは、政治・社会・経済と生活の危機と貧困の拡大。「個人の賃金が減っているのは先進国では日本だけだ」と図表やグラフを示しながら指摘しました。

そして、政治転換の突破口は野党結集にあり、「候補者を1本化し争点が明確になれば投票率が上がり、保守層の一部も合流し、市民を代表する候補が得票する」。政権交代の展望は「政権を任せてもよいという安心感をどうつくり出すかだ」と強調しました。

さらに「究極の理想より、脱原発の方向性や安心できる福祉国家、アジア諸国との信頼関係の構築など、5年先の日本を立て直すという政策の共有を」と提起しました。

東京大空襲・戦災資料センター開館15周年

東京大空襲を語り継ぐつどい

東京大空襲から72年を迎えた3月5日、江戸東京博物館ホールで「つどい」が開かれ、白神優理子弁護士が「若い世代が東京大空襲を語り継ぐということ」をテーマに講演しました。

講演する白神優理子弁護士

白神（しらが）さんは、高校生の頃に北砂1丁目の「戦災資料センター」を訪れ、戦争体験を聞き、憲法と出会い、弁護士になろうとした自身の気持ちの変化を紹介しました。

「戦争は、人間を壊し命を奪う、人生を根底から壊してしまう。目前で人間が焼かれ、飢えに苦しむ残酷で悲惨なもの、それが戦争。体験したみなさんが思い出したくないことを話し、平和な社会を創るのは、あなたたちだと呼びかけてくれた」

「憲法こそが平和な足元を照らす光だと話す体験者のみなさんのおかげで、私は憲法の本当の価値を知り、自分の生き方が変わった」

そして白神さんは、社会のおかしいことに対して、考え行動する「歴史のリレーランナーなろう」と呼びかけました。

また、つどいでは藤間宏夫さんが自らの戦争体験を「今だから伝えたいこと」をスライドで紹介。

大島二中の生徒は、資料センターで学んだ東京大空襲をテーマに、文化祭で劇を発表したことを報告しました。

館長の早乙女勝元さんは閉会挨拶で、「センターの運営を通して芽が出始めてきたことを実感している」と強調しました。

砂町の会

東京大空襲72年、憲法施行70年「戦争体験・憲法体験を聞くつどい」

戦争法の廃止を求める砂町の会（佐藤正広会長）は、一夜にして10万人が犠牲になった東京大空襲から72年の3月10日、80代、90代の兵役体験者を招いて「戦争体験・憲法体験を聞くつどい」を南砂区民館で開催しました。

軍隊生活を語る金森さん(右から2人目)と瀧川さん(同3人目)

徴兵された軍隊経験を語ったのは瀧川眞次さん（89歳）と金森健造さん（95歳）。瀧川さんは中島飛行機前橋工場勤務から旧海軍の海兵団に入り、米軍機の機銃掃射を体験しました。「あの頃は戦争一色。兵隊に行かないとおかしいという時代だった」と。

金森さんは横須賀海兵団から砲術学校を経て長崎で空母「天城」に乗船。呉に移動後に広島に投下された原爆の巨大な雲を目撃したそうです。

つどいは女性インタビューから2人に少年・青年時代から軍隊生活などの質問をぶつけ、それに答える形で進み、当時の天皇制軍隊の兵士への理不尽な仕打ちと、時にユーモアを交えた庶民のたくましい体験談に会場が沸きました。

金森さんは出先で敗戦を知り、急いで戻ったものの隊は空っぽ。「軍隊というのは、いざとなったら偉いさんほど意気地がない」と、ズバリと指摘しました。

いま憲法9条を亡きものにしようとしている安倍政権に対しては、「戦後からずっと生活に懸命だったので、憲法の事を考えるようになったのは安倍たちが騒ぎ出したからだ」と瀧川さん。金森さんも「孫たちを、あの時のように兵隊にもっていかれる時代にしてはいかん」と語気強く発言しました。

概説 江東の歴史（66）

浅沼稲次郎、日比谷に散る

日比谷公会堂で右翼青年に刺された瞬間の浅沼稲次郎

1960年1月、アイゼンハワー大統領と岸首相は、新しい日米安全保障条約に調印しました。この条約は、米国が日本の基地を使用し、日本や在日米軍基地が攻撃されたとき、米軍と自衛隊が共同行動をとることなどを決めました。これは日本を米国のアジア戦略体制に巻きこむものでした。

この条約に反対する社会党、共産党、総評などは、安保改定阻止国民会議を結成し、23次にわたる統一行動をくりひろげました。この統一戦線のきっかけは、1959年3月、浅沼稲次郎社会党訪中使節団長が「アメリカ帝国主義は日中両国人民の敵」と言明し、共同声明を発表したことにあります。

浅沼稲次郎は、江東区が育てあげた政治家です。彼は砂町小を卒業し、府立三中（両国高）をへて早稲田大学に進みました。大学で民人同盟をつくり、創立された共産党に参加しますが、共産党の一時解党で離党という形になります。その後、最初の無産政党「農民労働党」書記長となり、東京市会議員、初代都議会副議長、そして衆議院議員に選ばれました。生涯を白河町の同潤会アパートに住み、清廉な政治家、「人間機関車」などと親しまれた大衆的政治家でした。

江東区では、安保闘争のなかで多くの学習会がひらかれ、社共両党を中心に「平和と民主主義を守る江東区民共闘会議」が結成され、区内の統一戦線が大きく前進しました。

この闘いで岸内閣は退陣に追いこまれて解散、総選挙となります。10月12日、日比谷公会堂での各党首立会演説会で、浅沼稲次郎は演説中に右翼青年に刺殺されてしまいました。白河の同潤会アパートでの告別式には、その死を悼む人々があふれました。

10月20日「浅沼暗殺抗議国民大会」として、国民会議による最後の第23次統一行動がおこなわれました。

地を敷くデモ東西の訛（なま）り怒りに結集し

夢道

☆ 行事日程 ☆

○4月7日（金）18時45分～
◆共謀罪学習会（実行委主催）
（深川江戸資料館）

○4月9日（日）10時～
◆東京土建江東支部定期大会
（砂町文化センター）

○4月11日（火）18時30分～
◆江東社保協総会
（東京土建江東支部会館）

○4月19日（水）
◆第143回9の日宣伝
（区内7駅・西友前）